

明星大学大学院教則

平成26年4月1日
制 定

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この教則は、明星大学大学院学則（以下「学則」という。）第3条の3他、明星大学大学院学位規則（以下「学位規則」という。）に基づき、研究科又は専攻の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的等、並びに明星大学大学院（以下「本大学院」という。）の学生の学修について必要な事項を定める。

(適用)

第2条 この教則は、本大学院の研究科に在籍する学生（以下「学生」という。）に適用する。ただし、学則第46条及び第47条により入学を許可された者は除く。

(人材の養成に関する目的等)

第3条 本大学院の定める学則第3条の3に基づき、研究科又は専攻（以下「専攻等」という。）の人材の養成に関する目的等は、別表第1に定めるとおりとする。

2 学位授与方針、教育課程編成・実施方針、及び入学者受け入れ方針は、別表第1、別表第2、別表第3、及び別表第4に定めるとおりとする。

第2章 学位授与の要件

(修士学位授与要件等)

第4条 学則第25条第1項に基づき、各研究科委員会が定める学位授与の要件は、別表第5のとおりとする。

第5条 学位規則第3条に基づき、各研究科委員会が定める修士学位論文の主題等の提出時期は、別表第6-1のとおりとする。

第6条 学位規則第4条に基づき、各研究科委員会が定める修士の学位授与の申請時期は、別表第6-2のとおりとする。

(博士学位授与要件等)

第7条 学則第26条第1項に基づき、各研究科委員会が定める学位授与の要件は、別表第5のとおりとする。

第8条 学位規則第12条に基づき、各研究科委員会が定める博士学位論文の主題等の提出時期は、別表第7-1のとおりとする。

第9条 学位規則第13条に基づき、各研究科委員会が定める博士の学位授与の申請時期は、別表第7-2のとおりとする。

(休学中の学位授与の申請)

第10条 休学中の者は、学位授与の申請を行うことができない。

第3章 履修について

(履修登録)

第11条 学生は研究指導教員の指導を受け、学則第19条に基づき、毎学年次のはじめの指定された期間に履修しようとする授業科目の登録（以下「履修登録」という。）を行わなければならない。

2 履修登録をしていない授業科目は、単位を修得することはできない。

3 研究科長が必要と認めたとき、第1項に定める指定の期間以外に、履修登録をした授業科目の追加又は取消しを行うことができる。

(履修登録の条件)

第12条 履修登録できる授業科目は、入学年度に定められた教育課程に設置されたもののみとする。

2 前項にかかわらず、転研究科転専攻した者が履修登録できる授業科目は、転研究科転専攻した学年に定められた教育課程に設置されたもののみとする。

3 同一科目を重複して履修登録すること、及び既に単位を修得した授業科目を履修登録することはできない。

(再履修)

第13条 学生は、当該年度に履修した科目の単位を修得できなかった場合、再度履修登録すること（以下「再履修」という。）ができる。

(聴講)

第14条 学生は、単位修得を目的とせず、本学が開設する授業科目を受講すること（以下「聴講」とい

う。)ができる。

- 2 聴講を希望する学生は、在学生聴講許可願により当該授業科目を担当する教員の許可を得たのち、教務企画課に届け出なければならない。

第4章 授業について

(開講期間による授業科目の種類)

第15条 開講期間による授業科目の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 通年科目 : 学年30週にわたって開講する科目
- (2) 春学期科目 : 春学期15週にわたって開講する科目
- (3) 秋学期科目 : 秋学期15週にわたって開講する科目
- (4) 集中講義科目 : 一定期間に集中して開講する科目

(授業時間)

第16条 授業を行う時間帯は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 1時限目 9:00~10:30
- (2) 2時限目 10:45~12:15
- (3) 3時限目 12:55~14:25
- (4) 4時限目 14:40~16:10
- (5) 5時限目 16:25~17:55
- (6) 6時限目 18:10~19:40

(緊急時の措置)

第17条 台風・大雪・地震等の各種自然災害、大規模な事故・ストライキ等による交通機関の運行停止及びその他不測の緊急事態の発生又は発生が予測される場合、学長は授業の中止、休講又は短縮等の措置をとることができる。

- 2 前項に係る情報伝達は、学内放送及び本学のウェブサイト等適切な方法で行う。
- 3 前2項は試験についても適用する。

(学修等に関する情報伝達)

第18条 学修等に関する情報伝達は、原則として、本学の所定の掲示板上にて行う。ただし、必要に応じて、本学のウェブサイト等を使って情報伝達を行う。

第5章 試験について

(試験)

第19条 学則第20条に定める「試験」とは、主として学期末に行う試験をいう。ただし、授業科目によっては、授業期間内で随時行うことがある。

- 2 試験には、レポート等成果物によるものを含む。

(レポート等成果物の提出)

第20条 学生は、レポート等成果物を提出する場合、当該授業科目の担当教員の指示に従い、指定された期日までに指定された場所に提出しなければならない。

(受験)

第21条 試験を受験する学生は、試験監督者の指示に従わなければならない。

- 2 前項に定めるもののほか、学生は、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。
 - (1) 学生証を携行し、机上に提示すること。学生証を忘れた者は、受験許可票の交付を受け、提示すること。
 - (2) 受験のために使用を許可されたもの以外の物品は、指示された場所に置くこと。
 - (3) 答案用紙には、氏名及び所属する研究科・専攻・学籍番号を明瞭に記入すること。
 - (4) 配布された答案用紙等は、退出の際に必ず提出すること。
- 3 原則として、試験開始後20分を超えて遅刻した場合、当該授業科目の試験を受験することはできない。

第6章 成績について

(成績の評価)

第22条 学則第21条に定める各授業科目の成績の評価、評語及び評価基準は、別表第8-1のとおりとする。

- 2 修得した成績の評価を取り消すことはできない。

(成績の評価に係る異議申立て)

第23条 学生は、成績の評価に対する異議があるときは、別表第8-2に定める条件を満たした場合のみ当該成績に係る異議申立てをすることができる。

- 2 成績に係る異議申立てを希望する学生は、指定された期間内に、教務企画課に必要書類を提出しなければならない。

(GPAによる成績評価)

第24条 GPA(グレードポイントアベレージ)とは、履修登録したGPAの対象となる授業科目(以下「GPA科目」という。)の成績の評語ごとにGPを付して当該授業科目の単位数を乗じ、その総数をGPA科目の総単位数で除した値のことをいう。

- 2 本学が定めるGPは、別表第9のとおりとする。
- 3 GPAは小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で表す。
- 4 不合格科目を再履修した場合、再履修の評価が前の評価に上書きされ、上書きされる前の当該単位数は総履修登録単位数から除外される。
- 5 GPA科目は、原則として、学則第21条第3項に定める単位認定科目を除く科目とする。

第7章 博士論文の公表について

(公表の方法)

第25条 学位規則第22条に定める博士學位論文の公表は、本学の機関リポジトリの利用により行うものとする。

- 2 本学の機関リポジトリの利用について必要な事項は、別に定める。

第8章 学修上の倫理に反する行為について

(学修上の倫理に反する行為)

第26条 学則第45条に定めるもののほか、学修上の倫理に反する行為は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 他人のアイデアの盗用等、レポート等成果物提出の際の不正行為
- (2) その他、前号に定める行為に準ずる行為
- 2 前項に定める行為があった場合は、学長又は当該学生が所属する研究科長が関係部署の意見を聴いて、嚴重注意等を行うことができる。
- 3 前項の定めにかかわらず、学長が、第1項に定める行為について、重大又は悪質であると判断した場合、明星大学学生の懲戒に関する規程に基づき処分することができる。

第9章 その他

(委任)

第27条 この教則に定めるもののほか必要な事項は、学部長会の意見を聴いて、学長が定める。

(改廃)

第28条 この教則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則

この教則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この教則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この教則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この教則は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1

別表第2

別表第3

別表第4

別表第5-1

別表第5-2

別表第5-3～別表第5-5

別表第6-1及び別表第6-2

別表第7-1及び別表第7-2

別表第8-1及び別表第8-2

別表第9

別表第1 研究科・専攻の人材の養成に関する目的

<p>1. 理工学研究科</p>	<p>理工学研究科は、企業・研究所等において、企画・設計・研究開発等を行うための高度な専門技術と知識をもち、将来に向けた新たな研究テーマの発掘及び設定、並びに研究計画の立案及び実行といった研究のマネジメントができる専門的職業人と研究者を育成する。</p> <p>本研究科各専攻の人材養成の目的は、以下の通りである。</p> <p>(1) 物理学専攻</p> <p>物理学専攻は、物理学の特徴である「原理・原則に立ち返って事象を把握・分析し、合理的に判断できる思考方法」を身につけ、理学と工学の両面から問題を俯瞰し総括できる広い視野と、理論のみならず実験を重視しつつ問題解決策を探り、それを実践する行動力を持った人材を養成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、一つのテーマを深く研究して自然に対する理解を深めることを通して、自ら専門性を深めていく力、複雑な情報を整理・考察し、人に分かりやすく伝える力を有し、人との相互理解を深め、良い人間関係を築く力があり、学術分野のみならず社会活動においても、リーダーシップを発揮できる実践的な能力を有する専門職業人を養成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、博士前期課程で身につけた能力に加えて、一段と深い物理学の学識をもって、幅広い領域で自立して研究していただける専門家、研究者を養成する。</p> <p>(2) 化学専攻</p> <p>化学専攻は、実験研究の各段階（調査、計画、実施、結果の分析及び考察）を信頼性のある手法を用いて進めることのできる人材を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、化学の発展に寄与する研究開発に加わることができる学識と、実践する実験手法の専門性を備えた研究者や専門技術者を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、さらに研鑽を積みより深い学識と計画の立案及び具現化までに至る研究手法を身につけ、自立した研究活動を行うに必要な能力や、高度に専門的な業務をリードする能力を備えた人材を育成する。</p> <p>(3) 機械工学専攻</p> <p>機械工学専攻は、機械工学に関する高いレベルの専門知識を有するとともに、先進的な研究を通じて高度の問題解決力及び独創力を身につけた、日本の産業界の競争力強化に寄与できる人材を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、高度な専門知識と問題解決力、独創力とを兼ね備えて、開発、設計及び生産技術分野はもとより、機械製品のリサイクルに至るまで、機械工学の技術者が必要とされる幅広い分野で活躍できる専門的職業人を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、独創的で先進的な研究を自立して遂行する能力を身につけ、グローバルに評価される新技術や新製品の研究開発を幅広い分野で主体的に行うことができる専門的職業人及び研究者を育成する。</p> <p>(4) 電気工学専攻</p> <p>電気工学専攻は、能動的に専門知識を高めるとともに研究を行う態度を身につけ、国内及びアジア諸国の種々の技術的問題を理解し、その解決に取り組むことができる実行力を持った人を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程は、電気工学分野における、応用力を持った高度専門的職業人を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程は、高度の研究能力を持つ自立した電気技術者を育成する。</p> <p>(5) 建築・建設工学専攻</p> <p>建築・建設工学専攻は、高度な専門知識と技術を備え、社会の急激な変化に対応し、社会の新たな発展や技術の開発に貢献できる専門的職業人及び研究者を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程は、建築計画や意匠デザイン分野においては、高度なセンスと知識を持ち、実務に対応できる設計者・プランナー等を育成する。また、構造・材料・設備の分野では、高度な専門知識と技術を持ち、実務に対応できる施工技術者・構造設計者等を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、より高度な専門知識及び問題解決能力を持つ技術者・設計者・プランナー・研究者等を育成する。</p> <p>(6) 環境システム学専攻</p> <p>環境システム学専攻は、国内及びアジア諸国の環境問題を総合的に理解・分析し、問題解決に取り組む実行力とチームワーク力、技術者としての倫理感を持つ環境技術者及び企業等における研究者を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程は、環境分野における広範で高度な知識を持つとともに、それを問題解決に向けて応用することができ、かつ技術者倫理を有する環境技術者（21世紀の環境プロフェッショナル）を育成する。</p>
------------------	--

	<p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程は、より高度な研究能力を持ち、プロジェクトチームや組織の中で、リーダーシップを発揮することができる自立した環境技術者及び研究者を育成する。</p>
2. 人文学研究科	<p>人文学研究科は、変動著しい環境下に置かれた「人間」とその人間が作り出す「文化」や「社会」に関する諸問題を、各専攻の専門領域の視点から理論的・実証的に研究し、解明することを目指し、高度な専門性と豊かな人間性を備えた専門職業人として社会に貢献する事のできる人材を育成する。</p> <p>本研究科各専攻の人材養成の目的は、以下の通りである。</p> <p>(1) 英米文学専攻</p> <p>英米文学専攻は、多言語・多文化的状況が加速する現代社会において、文化・文学を含む幅広い教養と英語の実践的運用能力を備え、複眼的視野で適切な調査・分析を行い、その問題解決にむけて、深い人間理解と異文化理解に根ざした協働的リーダーシップを発揮することができる人材を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、実践的英語力と課題解決能力を備えた高度の専門的職業人を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、各学問分野において研究活動に従事することができる自立した研究者の育成を行う。</p> <p>(2) 社会学専攻</p> <p>社会学専攻は、社会学及び社会福祉学の修得を通して、現代社会とそこで展開される人間生活の状況と課題について科学的に考察する能力を高め、社会的諸課題に対する実証的な調査能力及び柔軟な実践力を有する市民社会の有用な実践者及び自立した研究者を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、中学・高等学校等の教員や福祉関連施設等の専門的職業人と博士後期課程に進学しうる基礎的な研究能力をもつ人材を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、高度な専門知識と研究能力を持ち教育・指導に携わる人材を育成する。</p> <p>(3) 心理学専攻</p> <p>心理学専攻は、心理学の研究・実践を通して、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材として、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成、ならびに高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程の一般心理学コースでは、幅広く深い学術を涵養し、バランスのとれた人間観のもと科学的な態度をもって人間の行動と認識を探究し、現代社会の抱える課題の解決に貢献できる、専門的知識と技術を備えた人材を育成する。臨床心理学コースでは、幅広い学識に根ざした高度専門職としての臨床心理士を目指し、高い倫理性を持ち、現代社会の様々な領域での人びとの心の健康の維持増進に貢献し、社会から信頼される人材を養成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、心理学研究および実践を通し、新しい知見を社会に還元し、新たな社会の創造・成長を牽引していく俯瞰力と独創力を備えた教育・指導に携わる人材を育成する。</p>
3. 情報学研究科	<p>情報学研究科は、情報処理技術を基盤とした、産業界に通用するエンジニアリングを修得し、直面する問題の本質を見抜き、的確な解決策を見出し具体的に実現を図り、新しい時代の技術課題を解決できる能力を有する人材を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、情報学の分野において高度な専門知識を持って社会に貢献できる技術者を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、情報学の分野において高度な研究能力を持って国際社会に貢献できる自立した技術者及び研究者を育成する。</p>
4. 経済学研究科	<p>経済学研究科は、経済現象を論理的に分析する能力を持ち、基礎的な研究や実践的フィールドワークを通じ、経済学の先進的研究を理解した上で、専門知識を社会の中で効果的に応用し、主体的に行動できる自立性を兼ね備えた人材を育成する。また、留学生制度を通じ、外国と日本の双方の経済圏において活躍する国際的経済人を育成する。</p>
5. 教育学研究科	<p>教育学研究科では、既存の人文学研究科教育学専攻の人材養成の目標を踏襲しつつ、「障害児者教育」及び「教科教育学」分野の充実を図り、教育の理論と実践の両面から高度な教育研究を行い、教育の本質課題に真摯に取り組むことのできる知見豊かな教育実践者及び研究者を養成する。また、博士前期課程においては、院生の希望に応じて、幼・小・中・高教諭及び特別支援学校教諭の専修免許状の取得可能な教育課程を編成し、その人材養成も併せて行う。</p> <p>[博士前期課程]</p> <p>教育実践者及び研究者として、教育思想・教育史、教育課程、教育方法、教育社会学、教育行財政、教育心理学、生涯学習、幼児教育、障害児者教育及び教科教育学を多面的かつ学際的に研究し、批判的省察をもって実践できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>[博士後期課程]</p> <p>博士前期課程における幅広い研究の成果の上に、さらに教育学の特定の研究領域に特化した研究を行い、それを基礎として専門分野において指導的立場で活躍でき、教育学の発展に貢献できる高度な専門性を有した人材を養成することを目的とする。</p>

別表第2 研究科・専攻の学位授与方針

<p>1. 理工学研究科</p>	<p>(1) 物理学専攻</p> <p>① 博士前期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかの分野における専門知識をもち、理学・工学の分野を横断的、体系的に理解する。 (思考・判断)</p> <p>2. 宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかにおいて、1のテーマをみつけ、その解決策または解決に至るには何が問題かを指摘できるようになる。</p> <p>3. 理学・工学の分野を横断的に見渡すことができ、専門知識を他分野にも応用することができる。 (関心・意欲)</p> <p>4. 物理学以外の活動で起こっている事象の中からでも、物理学の手法で解決できるものがあるならば、その解決策・方策等を系統的に整理して提示できる。 (態度)</p> <p>5. 宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかのテーマの中で得た思考や実験の結果を整理し、学内物理学系セミナーで、分野の異なる教員や大学院生、さらに学部学生にも理解できるように伝えることができる。分野によっては物理学会など、専門家による研究集会で、決められた時間内で、上記結果を発表できるようになる。</p> <p>6. 自ら率先して、研究室内のセミナーや輪講の企画、実験設備の管理などを、学部学生や後輩院生を監督して円滑に運営できるようになる。学会時に他大学学生との懇親会等に参加して会話ができるようになる。 (技能・表現)</p> <p>7. 現場で発生する問題・課題に対して、対処療法的ではなく、根源に立ち戻って問題の原因を見つけ、その解決方法を探ることができる。</p> <hr/> <p>② 博士後期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかの分野における専門知識を生かして、1つのテーマの解決策を与えることができるか、または、解決に至る筋道を客観的に示せる。 (思考・判断)</p> <p>2. 理学・工学の考え方や原理に基づき、問題を俯瞰し総括することができる。</p> <p>3. 現実の社会で発生している物理学以外の問題・事象に対しても、各分野で経験した研究手法が適用できる可能性を指摘できること、またはその問題点を整理できる。 (関心・意欲)</p> <p>4. 物理学以外の活動で起こっている事象の中で、物理学の手法で解決できるものがあるならば、問題の根源に立ち戻って具体的な解決策を提示できる。できないならば、その理由を提示して、不合理的な状況に陥らないよう行動できる。 (態度)</p> <p>5. 宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかの分野の中で得た思考や実験の結果が、読者付の学術誌に英文で投稿受理されるようになる、国際会議で講演できるようになる。</p> <p>6. 新たな研究テーマを自ら考え提案・研究して、未知の問題に解決策を与えられる専門的職業人として活躍できる。 (技能・表現)</p> <p>7. 研究などにおいて理論を提案するだけでなく、実際にやって検証すること、または検証するための技術、具体的方法を提示できる。</p> <hr/> <p>(2) 化学専攻</p> <p>① 博士前期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 化学分野の論文・資料の検索を通して、専門分野の研究動向を調べ、研究の背景と、研究計画の意味を理解している。</p> <p>2. 化学分野の研究手法に必要な実験技術を有し、実験結果を信頼性のある方法で解析することができる。 (思考・判断)</p> <p>3. 文献検索や学会活動を通して専門分野の研究動向を調べ、自らの研究の位置を判断できる科学的思考を有している。 (関心・意欲)</p> <p>4. 自らの研究に関連する研究報告例と対比しながら、着実に研究を進める関心の継続が有り、研究を発展させる意欲を、研究手法の工夫として実践している。 (態度)</p> <p>5. 高い倫理観をもって実験・研究を進めることができる。 (技能・表現)</p> <p>6. 策定された研究手法のもとに着実に実験を進め、信頼性のある分析を経て、研究成果を挙げている。</p>
------------------	---

7. 研究成果が、論文発表や学会発表により、客観的に評価されている。

② 博士後期課程

(知識・理解)

1. 経常的に文献検索を進め、専門分野の研究動向を把握して学識を深めている。
2. 専門分野の研究を、一般に解説することができる。
3. 化学分野の共通語である英語で、論文を執筆・発表する経験を積んでいる。

(思考・判断)

4. 専門分野の学識を背景に、自ら計画を立てて実験を実施し、結果の解析の精度の向上に努めて、研究手法の高度化を図ることができる。

(関心・意欲)

5. 専門分野に関わる関連分野にも、文献検索の幅を広げ、共同研究や学会活動を通して、他の研究機関の研究者と交流し、将来の課題を考えることができる。

(態度)

6. リーダーシップをもってチームの実験・研究に貢献することができる。

(技能・表現)

7. 論文発表や学会発表を進め、批判を受け入れて、より確実な研究手法への発展を図ることができる。
8. 専門分野の研究で、高度な実験手法と解析手法を表わすことができる。
9. 自ら研究を実施し、研究手法を実証している。
10. 自らの研究の目的の、社会に於ける意義を明らかにすることができる。

(3) 機械工学専攻

① 博士前期課程

(知識・理解)

1. 材料力学、機械力学、流体力学、熱力学を体系的に理解して、現実の事象に適合したモデルの設計・解析を行う技術を修得している。

2. 測定や加工などの研究手法・実験技能を身につけている。

(思考・判断)

3. 具体的かつ詳細な研究計画を立案し、当該研究計画に基づき実験及び解析をやり遂げることができる。

4. 問題に対する解決策を論理的及び実験に基づく検証により導き出すことができる。

(関心・意欲)

5. ディスカッションを通じて、研究手法、実験手法、解析手法に創意工夫を加えることができる。

6. 国内外の学術研究論文や企業訪問を通して、専門分野の先進的な研究、研究に必要な近隣分野の情報を収集し、取舍選択することができる。

(態度)

7. 指導教員等と円滑なコミュニケーションを図りながら、リーダーシップをもってチームの研究に貢献することができる。

8. 技術者としての高い倫理観を有している。

(技能・表現)

9. 4力学に基づいて、さらにそれぞれを複合したデザイン・加工分野、エネルギー・環境分野、システム・制御分野を選択し、学生が選択した分野において、研究手法・実験技能を身につけている。

10. 機械工学分野の専門知識と高い技術力を用いて、既存の製品の問題を発見することができる。

11. 科学技術の発展と多様化に対応できる論理的思考力と文章力、プレゼンテーション能力を有している。

② 博士後期課程

(知識・理解)

1. 当該分野の具体的な製品モデルの設計・解析を行う技術を修得している。

2. 問題の中から自ら課題を設定し、自立して研究計画を立て、研究を実施することができる。

(思考・判断)

3. 既存の研究・技術を組み立てて、新たな技術を創出することができる。

(関心・意欲)

4. 専門分野の先端研究等と自らの研究の比較を通じて、より独創的な研究開発を行うことができる。

(態度)

5. 独創的で先進的な研究を熱意と忍耐力を持ってやり遂げることができる。

6. 技術者としての社会的責任を自覚し、高い倫理観をもって実験・研究に従事することができる。

7. 同テーマを遂行する学部生・大学院生前期課程等への研究チームリーダーの役割を通じて、当該分野の人材育成に貢献することができる。

(技能・表現)

8. 機械工学分野の専門知識と高い技術力をもって、独創的で競争力のある製品を開発することができる。

9. 日本の産業界の活性化につながる研究成果を専門分野で学術論文誌に投稿、及び関連分野での国際学会で英語にて発表することができる。

(4) 電気工学専攻

① 博士前期課程

(知識・理解)

1. 研究を行うために必要な電気工学に係る基礎的な知識と、実験及びデータ解析に必要な技術を有している。
2. 国内外・国際的における技術的問題を理解し、説明することができる。
(思考・判断)
3. 研究又は問題解決に必要な情報・技術を取捨選択し、コントロールすることができる。
(関心・意欲)
4. 自らの研究テーマを理解し、課題解決ができる。
(態度)
5. 試行錯誤をして、問題解決に立ち向かうことができる。
(技能・表現)
6. 実験・データ解析結果を活用し、より深い研究に取り組むことができる。
7. 研究成果を出すために必要な情報や技術を取捨選択・コントロールする情報マネジメントを学んでいる。
8. 実験やデータ解析結果等に基づき、論理的に問題解決策を導き出すことができる。
9. 問題発見から解決策の提案までを論文又は口頭でまとめることができる。

② 博士後期課程

(知識・理解)

1. 国際会議で発表できるレベルの研究と合わせて英語力を有している。
(思考・判断)
2. 技術革新につながる研究テーマを自ら設定する企画力を有し、自立して研究計画を立案・実施することができる。
(関心・意欲)
3. 技術的問題の中から、自らが研究するテーマ・課題を発見することができる。
(態度)
4. 技術的問題に対し、グローバルな視点から俯瞰することができる。
(技能・表現)
5. 将来、博士の学位に匹敵する仕事をする可能性がある。
6. 高度な専門知識と技術で、技術的問題を解決することができる。
7. 自立して研究計画を立案し、研究を実施する過程を学んでいる。
8. 学術論文に匹敵する論文又は国際会議における発表に匹敵するプレゼンテーション能力を有している。

(5) 建築・建設工学専攻

① 博士前期課程

(知識・理解)

1. 建築物を取り巻く社会的背景や空間特性、機能性を読み解く力を有している。(建築・デザイン)
2. 建築、構造、設備、建設における計画、設計、施工、管理の実務に係わる幅広い知見と理解力を有している。(構造・設備・建設工学)
(思考・判断)
3. 技術者倫理を理解し、種々の条件・制約を踏まえて、建築物の立案、設計、プレゼンテーションをすることができる。(建築・デザイン)
4. 建築構造、建築材料、建築設備あるいは建設工学分野における問題を把握し、考究する能力を有している。(構造・設備・建設工学)
(関心・意欲)
5. 専門分野に係わるコミュニケーションを図りながら、文献調査、実験、観測、現地調査など熱意をもって進め、自らの設計、研究を深めてゆくことができる。
(態度)
6. 積極的に設計競技に参加し、あるいは学会発表を行い、自らの設計および研究の専門分野における意義と社会的な重要性を認識するとともに、設計および研究における問題に対する解決策を検討することができる。
7. 建築、建設技術が社会に及ぼす影響、および設計者、技術者が社会的に負っている責任を理解して、専門分野における自らの課題に取り組むことができる。
(技能・表現)
8. 計画から工事監理までのプロセスを理解し、専門家としてそれを実践するための能力を有している。(建築・デザイン)
9. 専門知識に基づく実験、実測、解析を行い、結果の整理と解釈から正しい説明を行うことができる。(構造・設備・建設工学)

② 博士後期課程

(知識・理解)

1. 研究結果を正しく解釈し、その成果を学会等において説明することができる。
(思考・判断)

	<p>2. 高度な専門知識に基づく社会性のある新規的で独創的な研究計画を立案でき、その遂行能力を有している。 (関心・意欲)</p> <p>3. 建築、建設分野において社会性を有する観点から新規的で独創的な研究遂行ができ、その成果を国内外の学会等において広く公表し、また、多様な情報を積極的に収集し、自らの研究をより高めていくことができる。 (態度)</p> <p>4. 建築、建設技術の社会における役割、責任を理解し、技術的問題に対して技術者、研究者は社会的な説明責任を負っていることを踏まえて、技術開発、研究に従事することができる。 (技能・表現)</p> <p>5. 実務に対応できる幅広い知見と理解力および技術開発能力を有している。</p>
	<p>(6) 環境システム学専攻</p> <p>① 博士前期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 環境分野に関する広範で高度な知識を持ち、自己の解決すべき課題の位置づけ、内容、達成方法を理解し、説明することができる。</p> <p>2. 環境問題の分析・解決に必要な実験・調査（データ収集・解析方法等）を理解することができる。 (思考・判断)</p> <p>3. 環境問題に関する専門知識を有し、環境問題を地域的及び地球的視点から多面的に捉える思考力を有している。 (関心・意欲)</p> <p>4. 専門知識と技術を現実の環境問題の解決のために応用することができる。 (態度)</p> <p>5. 継続的に技術の研鑽・専門知識の修得に励むことができる。</p> <p>6. 実験・演習・研究を通して、問題解決に取り組む意欲と実践力、判断力を身につけている。</p> <p>7. 技術者倫理を理解し、環境技術者として自らの倫理的な判断基準・行動原則を有する。 (技能・表現)</p> <p>8. 環境問題の解決に必要な実験・分析・調査の技術を身につけ、実践することができる。</p> <p>9. 問題解決のための的確なコミュニケーション力を有する。あわせて、英語で専門的なコミュニケーションをはかることができる。</p> <p>② 博士後期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 博士後期課程に必要な高度の学術的知識、考察方法及び実験・調査スキルを身につけている。 (思考・判断)</p> <p>2. 自ら研究テーマを設定し、研究計画の立案から実施まで、研究をマネジメントすることができる。 (態度)</p> <p>3. プロジェクトチームや組織の中で、リーダーとしてチームに貢献することができる。</p> <p>4. 国内及びアジア諸国の環境問題を理解し、その問題の解決に取り組むチームに環境技術者として貢献することができる。 (技能・表現)</p> <p>5. 実務者として活動するための英語力、プレゼンテーション技術、教授力を有している。</p>
2. 人文学研究科	<p>(知識・理解)</p> <p>1. 研究課題を人文科学の基礎概念と展開の中で位置づけ、研究領域に必要な知識を理解している。 (思考・判断)</p> <p>2. 人間の精神構造ならびに営みの多様性に鑑み、科学的分析力と洞察力とを相補的に駆使することにより、人文学的諸課題を解明することができる。 (関心・意欲)</p> <p>3. 高度な専門的知識と技術を有する人材として、教育的指導の任に耐えられる力と倫理観を有する。 (態度)</p> <p>4. 人文学に属する諸領域の専門知識と技能を生かし、各現象に関する総合的な判断力ならびに批判力、創造的な研究能力をもって広く社会に貢献することができる。 (技能・表現)</p> <p>5. 学問的に会得した高度な知識・経験・技術等を、一般社会に還元できる平易な言葉に置き換える力を有する。</p> <p>6. 専門領域に関わる人間との相互批判的な交流に努める。</p> <p>7. 常に新しい課題を見出し、究明しようとするチャレンジ精神を有する。</p> <p>(1) 英米文学専攻</p> <p>① 博士前期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 英語、及び異文化に関する深い知識を身につけている。</p> <p>2. 修得した知識、及び課題解決能力を論文作成に活用できる。</p>

(思考・判断)

3. 知識や情報を論理的に分析し、応用できる能力を身につけている。
 4. 研究者として学問領域に、専門分野に関する知識や調査の経験を活用・貢献できる。
- (関心・意欲)
5. 国際社会の一員として、人類の諸問題に関心をもつことができる。
- (態度)
6. リーダーシップ、及び円滑なコミュニケーション能力を発揮することにより、問題解決ができる。
- (技能・表現)
7. より専門的な知識・情報をもとに、国内・海外の学会で研究発表ができる。
 8. 研究過程で発生した諸問題の解決手段を見出すことができる。

② 博士後期課程

(知識・理解)

1. 英語、及び異文化に関するより深い知識を身につけている。
 2. 修得した知識、及び課題解決能力を総合的に活用できる。
- (思考・判断)
3. 知識や情報を論理的に分析・応用する能力を活用し、自立した研究者として、学問領域にその経験を活かすことができる。
- (関心・意欲)
4. 課題解決に必要な知識・情報を収集・分析したうえで、それを自らの研究に活用することができる。
- (態度)
5. 国際社会の一員として、問題解決に向け、異文化間の相互理解、及び他者との協働作業にとりくむことができる。
- (技能・表現)
6. より深い学識・経験のもとに、積極的かつ活発な国内外における学会参加、及び研究・執筆活動ができる。

(2) 社会学専攻

① 博士前期課程

(知識・理解)

1. 自分の意見、主張を論理的に伝えることのできる論文構成能力、コミュニケーション能力を身に付ける。
 2. 社会学理論・原論あるいは社会福祉理論・原論を学修した上で、教育、歴史、労働、社会保障、地域・思想の領域に関する高度な専門的知識を持っている。
 3. 社会学・社会福祉学における高度な専門的知識・技能を持ち、自分の研究関心を提示できる。
- (思考・判断)
4. 現代社会の諸課題に関する洞察と問題提起を行える能力を身に付ける。
 5. 複雑化する社会問題にアクチュアルに向き合う学術研究の遂行能力を身につける。
 6. 専門領域の研究状況の概要を把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている。
- (関心・意欲)
7. 現代社会に生きる人たちをとりまく課題について、人権と社会正義の原理に基づき理解し、そのおかれている状況をめぐる課題を解決できるようにする。
 8. 専門社会調査士として、多様な調査法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営する能力、高度な分析手法による報告書を分担執筆できる能力を身につける。
 9. 専門領域における研究動向に関心を持ち、研究の達成状況を発表する意欲を持つ。
- (態度)
10. 自分の意見や主張、成果を社会に誠実に発信できる。
 11. 実証研究を実施する際の、調査対象者に対するインフォームド・コンセントや研究倫理を理解できる。
- (技能・表現)
12. 社会学・社会福祉学領域における専門知識を踏まえながら、他者と積極的に意見交換することを通じて自らの研究成果を社会一般に発信する能力を身に付ける。
 13. 専門領域における研究動向を概観し、研究の達成状況を述べることができる。

② 博士後期課程

(知識・理解)

1. 自分の意見・主張を論理的に伝えることのできる論文構成能力、コミュニケーション能力、研究成果を評価する能力を身に付ける。
 2. 社会学理論・原論あるいはソーシャル・マネジメント理論、社会福祉理論を学修した上で、教育、歴史、労働、社会保障、地域・思想の領域に関する高度な専門的知識を持ち、それらの達成状況と課題について述べるができる。
 3. 社会学・社会福祉学における高度な専門的知識・技能を持ち、その研究達成状況を踏まえたうえで、自分の研究成果を発信することができる。
- (思考・判断)

4. 現代社会の諸課題に関する洞察と問題提起、問題解決、解決策の提示を行える能力を身に付ける。
5. 複雑化する社会問題に、リーダーシップをもって、アクチュアルに向き合う学術研究の遂行能力を身につける。
6. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況の概要を把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づけるとともに、様々な社会問題に適切な問題解決策を案出する能力を備えている。
(関心・意欲)
7. 現代社会に生きる人々をとりまく課題について、人権と社会正義の原理に基づき理解し、そのおかれている状況をめぐる課題をリーダーシップを発揮して解決できるようにする。
8. 専門社会調査士として、多様な調査法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営する能力、高度な分析手法による報告書の構成をたて、かつ総合的に報告書を執筆・編集できる能力を身につける。
9. 専門領域における研究動向を概観し、研究の達成状況を述べ、今後取り組むべき研究課題を述べる
ことができる。
(態度)
10. 自分の意見、主張を論理的に伝えることのできる論文構成能力、コミュニケーション能力、さらには他の研究者の研究を評価・指導することのできる能力を身に付ける。
11. 実証研究を実施する際の、調査対象者に対するインフォームド・コンセントや研究倫理を理解したうえで、研究チームにそれらを周知することができる。
(技能・表現)
12. 社会学・社会福祉学領域における専門知識を踏まえながら、他者と積極的に意見交換することを通じて自らの研究成果を社会一般に発信する能力を身に付ける。
13. 専門領域における研究動向を概観し、研究の達成状況、検討されるべき課題、その課題を解明するための適切な研究方法を述べる
ことができる。

(3) 心理学専攻

①博士前期課程

(知識・理解)

1. 心理学の研究方法論や多様な理論を理解した上で、複雑な人間行動のメカニズムを理解できる。
2. 心理臨床の実践にかかわる関連法規を理解できる (臨床心理学コース)
(思考・判断)
3. 実証的科学的な論理的思考を行うことができる。
(関心・意欲)
4. 理論的・社会的な文脈と関連づけながら自らの研究課題を設定できる。
(態度)
5. 専門領域の内外において幅広い専門的・学術的な交流を行うことができる。
6. 研究者倫理を身につけ、実践することができる。
7. 臨床家としての倫理を身につけ、実践することができる (臨床心理学コース)
(技能・表現)
8. 適切な研究計画を立案できる。
9. 研究から得られたデータを適切に解析することができる。
10. 得られた結果を理論的・社会的文脈に位置づけることができる。
11. 最新の臨床心理学理論と技法を用いて、心理臨床の実践ができる (臨床心理学コース)

②博士後期課程

(知識・理解)

1. 心理学の研究方法論や多様な理論を理解した上で、複雑な人間行動のメカニズムを理解できる。
(思考・判断)
2. 実証的科学的な論理的思考を行うことができる。
(関心・意欲)
3. 理論的・社会的な文脈と関連づけながら自らの研究課題を設定できる。
(態度)
4. 専門領域の内外において幅広い専門的・学術的な交流を行うことができる。
5. 研究者倫理を身につけ、実践することができる。
6. 研究成果を学界ならびに社会に還元し、学術や社会の発展に貢献できる。
(技能・表現)
7. 適切な研究計画を立案できる。
8. 研究から得られたデータを適切に解析することができる。
9. 得られた結果を理論的・社会的文脈に位置づけることができる。

3. 情報学研究科

① 博士前期課程

(知識・理解)

1. 情報工学及び関連分野の必要な情報を入手し、精査のうえ取捨選択して、獲得した知識や専門知識を関連付けて活用することができる。
2. 情報工学及び関連分野に関する専門知識を系統的に理解し、必要なICTツールを効率的に利用して、緻密で正確な自己の主張を実現することができる。
(思考・判断)

3. 情報工学分野における現状と目標を把握し、その乖離から、解決すべき課題を発見することができる。
4. 課題の因果関係を理解し、本質を見抜くことができる。
5. 実行結果を客観的に評価し、計画を見直し次期計画に反映することができる。
(関心・意欲)
6. 情報工学のみならず、数学・自然科学に関して広い知識を有し、その内容を理解の上、情報工学と共用することができる。
7. 知的好奇心を基に専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て斬新な発想をすることができる。
(態度)
8. 目的と目標を設定し、順序立てて計画し、実践することができる。
9. 自己研鑽のために普段から目標を設定してその達成の道筋を立て、邁進することができる。
10. 関連法令を遵守し、社会責任を果たすことができる。
(技能・表現)
11. 複雑な事象を整理し、構造化できる。
12. 自分の意見を論理的に構築し展開することができる。
13. 広く深い知識と経験をもとに、ICTを適切に用いて、精確に作業を進め、情報工学を実践することができる。

② 博士後期課程

- (知識・理解)
1. 情報工学及び関連分野の必要な情報を入手し、精査のうえ取捨選択して、獲得した知識や専門知識を関連付けて活用することができる。
 2. 情報工学及び関連分野に関する高度な専門知識を系統的に理解し、必要なICTツールを効率的に利用して、緻密で正確な自己の主張を実現することができる。
(思考・判断)
 3. 情報工学分野における現状と目標を把握し、その乖離から、解決すべき課題を発見することができる。
 4. 課題の因果関係を理解し、本質を見抜くことができる。
 5. 実行結果を客観的に評価し、計画を見直し次期計画に反映することができる。
(関心・意欲)
 6. 情報工学のみならず、数学・自然科学に関して広い知識を有し、その内容を理解の上、情報工学と共用することができる。
 7. 専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て科学技術の発展に貢献するような独創的な考えに基づいて、それを計画的に実行する能力を有する。
(態度)
 8. 目的と目標を設定し、順序立てて計画し、実践することができる。
 9. 自己研鑽のために普段から目標を設定してその達成の道筋を立て、邁進することができる。
 10. 知的好奇心を基に専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て斬新な発想をすることができる。その際、関連法令を遵守し、社会責任を果たすことができる。
(技能・表現)
 11. 複雑な事象を整理し、構造化できる。
 12. 自分の意見を論理的に構築し展開することができる。
 13. 広く深い知識と経験をもとに、ICTを適切に用いて、精確に作業を進め、情報工学を実践することができる。

4. 経済学研究科

- (知識・理解)
1. 経済学の基礎理論を習得している。
 2. 政策提言のための知見を提示することができる高度な理論的分析手法あるいは実証的分析手法を身に付けている。
 3. 文献研究や判例研究を通じた実践的知識を有する。
 4. アジアを中心とする地域産業や流通に関する専門的知識を有する。
(思考・判断)
 5. 現実の経済現象および社会現象についての課題に対する洞察力と判断力を有する。
 6. 専門分野における高い識見を有し、実務における的確な判断力を有する。
(関心・意欲)
 7. 積極的に、様々な現実問題に経済学的視点から取り組む意欲を有する。
 8. 専門知識を基礎として、経済活動に対する深い関心を有する。
(態度)
 9. 国際化や多様化する現代の社会や組織において、自主性や協調性を持って自己の役割を果たす意欲を有する。
 10. 社会に対する高い使命感を持ち、職業倫理に基づいた健全な判断力を身に付けている。
(技能・表現)
 11. 自ら研究計画を立案し、問題発見から解決策の提示にいたる過程を論文としてまとめることができる。

	12. 自らの考えを効果的に主張することのできるプレゼンテーション能力とともに、他者の考えを把握して討論することのできるコミュニケーション能力を有する。
5. 教育学研究科	<p>① 博士前期課程</p> <p>(知識・理解)</p> <p>1. 文献や資料を正確に読み、理解する能力を身につけている。</p> <p>2. 関連する教科に関する深い知識を身につけている。</p> <p>(思考・判断)</p> <p>3. 文献や資料の読解によって得られた理論や考え方などから、教育の現場における個々の具体的な事象に適合する教育方法を演繹的に導き出す実践的な能力を身につけている。</p> <p>4. 教育の現場で得られた調査結果や実践結果から、新たな法則や理論を帰納的に導き出す能力、または既存の法則や理論を検証する能力を身につけている。</p> <p>(関心・意欲)</p> <p>5. 崇高なるものや美なるものに対する感受性を身につけている。</p> <p>6. 自然界の驚異や秩序、人間のさまざまな営みなどの、関連する教科が対象とする事象に対し、深い愛情と関心を持って接することができる。</p> <p>7. 教育の対象となる者(幼児・児童・生徒・障害者)への愛情と共感を身につけている。</p> <p>(態度)</p> <p>8. 時代や社会の要請に応えつつも、同時に普遍的な価値を見失わない態度を身につけている。</p> <p>9. さまざまな教育観があるなかで、幼児・児童・生徒の全人格的な成長を優先的に考えることの出来る態度を身につけている。</p> <p>10. 家庭や学校、地域社会における教育事象を、さまざまな学問領域の観点から多面的に批判を加え、自らの教育実践に活かすことの出来る態度を身につけている。</p> <p>(技能・表現)</p> <p>11. 関連する教科や専門分野に関する熱意を、他者に伝え得る論理性と客観性をもって表現することが出来る。</p> <hr/> <p>② 博士後期課程</p> <p>(知識・理解)</p> <p>1. 文献や資料を正確に読み、理解する能力を身につけている。</p> <p>2. 関連する教科に関する深い知識を身につけている。</p> <p>(思考・判断)</p> <p>3. 文献や資料の読解によって得られた理論や考え方などから、教育の現場における個々の具体的な事象に適合する教育方法を演繹的に導き出す実践的な能力を身につけている。</p> <p>4. 教育の現場で得られた調査結果や実践結果から、新たな法則や理論を帰納的に導き出す能力、または既存の法則や理論を検証する能力を身につけている。</p> <p>(関心・意欲)</p> <p>5. 崇高なるものや美なるものに対する感受性を身につけている。</p> <p>6. 自然界の驚異や秩序、人間のさまざまな営みなどの、関連する教科が対象とする事象に対し、深い愛情と関心を持って接することができる。</p> <p>7. 教育の対象となる者(幼児・児童・生徒・障害者)への愛情と共感を身につけている。</p> <p>(態度)</p> <p>8. 時代や社会の要請に応えつつも、同時に普遍的な価値を見失わない態度を身につけている。</p> <p>9. さまざまな教育観があるなかで、幼児・児童・生徒の全人格的な成長を優先的に考えることの出来る態度を身につけている。</p> <p>10. 家庭や学校、地域社会における教育事象を、さまざまな学問領域の観点から多面的に批判を加え、自らの教育実践に活かすことの出来る態度を身につけている。</p> <p>(技能・表現)</p> <p>11. 関連する教科や専門分野に関する熱意を、他者に伝え得る論理性と客観性をもって表現することが出来る。</p> <p>12. 関連する教科や専門分野において、他の教育従事者を指導することのできる技能と表現力を身につけている。</p>

別表第3 研究科・専攻の教育課程編成・実施方針

1. 理工学研究科	<p>(1) 物理学専攻 物理学専攻は、「宇宙物理学・天文学」「物性物理学」「原子核・素粒子物理学」の3分野に分け、理論だけでなく実験を重視した教育課程を編成する。各分野に「特論」科目を配置し、物理学の多様な専門分野に共通する基礎知識を修得させる。また、各分野の専門基礎から応用までを修得するための「演習・実験」科目を配置し、原理・原則から現象を合理的に推論できる思考方法と工学分野に応用できる実践的な知識・研究能力を養う。</p> <p>(2) 化学専攻 化学専攻は、専門分野を「無機化学」「有機化学」「物理化学」「分析化学」「生化学」の5分野に大別した科目区分で、それぞれの分野ごとに講義形態の特論科目および演習・実験科目を配したカリキュラムを編成している。特論科目ではそれぞれの専門分野および隣接する分野における進歩の状況を学び、また、演習・実験科目では実験研究を実践し、さらに各化学研究科で論文作成の指導を受けながら、研究活動を進める。実験研究を実践、結果を専門分野の学会で発表し批判を受ける過程を通して、課題分析・問題解決の能力を養う。</p> <p>(3) 機械工学専攻 機械工学専攻は、専門分野を「デザイン・加工分野」、「エネルギー・環境分野」及び「システム・制御分野」の3分野に分けて教育課程を編成する。各専門分野に共通して必要な数学的知識とスキルを養うために「数理工学科目」を配置し、機械工学の基盤となる4力学（材料力学・熱力学・流体力学・機械力学）と各専門分野の基礎知識を修得するための「特論」科目を配置する。さらに、「演習・実験」科目を置き、各専門分野の高度な研究方法・応用技術を修得させる。</p> <p>(4) 電気工学専攻 電気工学専攻は、「電力・制御分野」「情報・通信分野」「物性・デバイス分野」の3分野に、「コア科目」と「共通・周辺分野科目」を加えたカリキュラムを編成する。「コア科目」では、各分野の専門科目の履修に必要な基礎知識と数学的スキルを養い、各分野に展開する専門科目では、専門性の高い知識と技術を修得させる。さらに、「共通・周辺分野科目」では、各分野の研究者から最先端の研究や技術動向を学ぶ科目を配置し、視野の広い高度専門的職業人を育成する。</p> <p>(5) 建築・建設工学専攻 建築・建設工学専攻は、「建築デザイン」「構造工学・材料工学」「建設工学」「建築設備」の4つの「専門分野科目」とそれらを広い視野から学べる「共通分野科目」によってカリキュラムを編成する。「専門分野科目」では、研究テーマに関する高度な専門知識・技術を修得するとともに、周辺領域の知識・技術を学び、実務に係る理解力を養う。さらに、「共通分野科目」では、インターンシップ科目を加えて幅広い知見を習得し専門家としての実践力を養うとともに、一級建築士受験にも備える。</p> <p>(6) 環境システム学専攻 環境システム学専攻は、「環境情報系」と「環境技術系」の2つの専門領域を柱とし、「共通科目」「基盤科目」「専門科目（環境情報系、環境技術系）」によってカリキュラムを編成する。「共通科目」では、各専門領域に共通する広範な基礎知識・技術を修得させ、「基盤科目」では、各専門領域の専門基礎知識・技術を修得させる。さらに、「専門科目」では、各領域の高度な専門知識と技術を修得させ、「総合学外実習」や論文指導を通じて、国内及びアジア諸国の環境問題の解決に応用・展開する実践力・実行力を養う。</p>
2. 人文学研究科	<p>(1) 英米文学専攻 本専攻は、英語学・英文学・米文学・文化研究の各分野において、体系的に学ぶ機会を提供するとともに、専門分野の個別テーマの探究を指導することを目的としている。英語での学位論文作成に向け、研究アプローチの選択とアカデミックライティングの方法論など多彩な関連科目を置き、英語圏文化についての講義や英語論文作成能力の養成を行う。</p> <p>(2) 社会学専攻 本専攻は、社会学・社会福祉学の分野において、大きく変化する現代社会の課題に対し多様な視点から対応するために文献研究、実習、演習、調査を通じてそれらを実際に運用できる実践力を身につけ、価値、知識、技能の統合を図る。</p> <p>(3) 心理学専攻 心理学における研究遂行に必要な資料収集・分析および研究成果の発信能力を身につけるためのカリキュラムを提供する。具体的には、各領域における研究の現状や課題という高度な専門的知識を総合的に提供する「専門講義科目群」、データ解析法や心理学的研究方法論を身につける「研究法科目群」、さらに、自らの研究課題の意義を理論的・社会的文脈に適切に位置づけ、研究を遂行するための「研究科目群」を備えている。また、高度専門職である臨床心理士を目指す臨床心理学コースにおいては、臨床技法の習得のための「臨床技法科目群」「臨床実習科目群」も備えている。</p>
3. 情報学研究科	<p>情報学専攻 急速に進展するグローバルな高度情報社会を支える情報技術分野において、より先進的で高度な専門知識と技術を身につけ、それらを活用して、新しい時代の技術課題を実践的に解決できる应用能力を持った人材を養成するためのカリキュラムを編成する。</p>
4. 経済学研究科	<p>応用経済学専攻 応用経済学専攻は、経済学の基礎的素養を修得するための「コア科目」と、6つの応用分野（「商学・流通」「地域・アジア・国際」「租税」「会計」「金融」「政策」）に分類される「専門科目」で編成される。「コア科目」では、経済学の基礎的知識と実証的分析手法を修得し、「専門科目」では、修士論文執筆に必要な各応用分野の専門的知識と実証研究の手法を修得する。また、研究指導・論文指導を通じ、修士論文の作成と共に、実践力となるプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。なお、税務のスペシャリスト養成の観点から、税理士試験科目免除を目的とする税法論文に役立つ専門科目を充実し、税法研究者・実務経験者による論文指導を行う。</p>
5. 教育学研究科	<p>教育学専攻 本専攻は、教員・保育士、及び教育・保育に創造的に関わる人を育成する学部をベースに、障害児者教育・教科教育学分野の充実を図り、教育思想、教育課程、教育方法、教育行財政、教育心理等を多面的に研究し、指導的立場で活躍できる人材を養成する。また、幼・小・中・高教諭及び特別支援学校教諭の専修免許状の取得可能な教育課程を編成している。</p>

別表第4 研究科・専攻の入学受入れ方針

<p>1. 理工学研究科</p>	<p>(1) 物理学専攻</p> <p>①博士前期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 自然科学における実証性、論証性という方法論を理解し、特に宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかの分野における興味と基礎知識をもっている人。 (思考・判断)</p> <p>2. 宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかにおいて、テーマをみつけ、物理的手法によりその理解と、問題解決に努力をする意欲をもっている人。</p> <p>3. 理学・工学の分野を横断的に見渡し、専門知識を他分野にも応用することに意欲がある人。 (関心・意欲)</p> <p>4. 物理学以外の活動で起こっている事象の中からでも、理論や、実験による物理学手法による解決に関心・意欲を持っている人。 (態度)</p> <p>5. テーマの中で得た思考や実験の結果を整理し、物理学に関する、発表・議論に積極的にのぞむことに意欲を持っている人。</p> <p>6. 自ら率先して、研究室内の運営に携わること、良い人間関係を築くことに意欲を持っている人。 (技能・表現)</p> <p>7. 現場で発生する問題・課題に対して、根源に立ち戻ってその解決方法を探ることに意欲を持っている人。</p> <hr/> <p>②博士後期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 自然科学における実証性、論証性という方法論を理解し、自然科学、特に宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかの分野における修士課程修了程度の知識を持っている (思考・判断)</p> <p>2. 理学・工学の考え方や原理に基づき、問題を解決することに意欲を持っている人。</p> <p>3. 現実の社会で発生している物理学以外の問題・事象に対しても、各専門分野で経験した研究手法を適用することに意欲を持っている人。 (関心・意欲)</p> <p>4. より高度な物理学を学び、物理学以外の活動で起こっている事象の中で、物理学の手法で解決できるものがあるならば、その解決策を提示することに意欲を持っている人。 (態度)</p> <p>5. 宇宙物理学・天文学、物性物理学、原子核・素粒子物理学のいずれかの分野の中で思考や実験の高度な結果を得ること、専門分野において投稿、発表することに意欲を持っている人。</p> <p>6. 新たな研究テーマを自ら考え提案・研究して、未知の問題に解決策を与えられる専門的職業人となることに意欲を持っている人。 (技能・表現)</p> <p>7. 研究などにおいて理論を提案するだけでなく、実際にやって検証すること、または検証するための技術を身につけることに意欲を持っている人。</p> <hr/> <p>(2) 化学専攻</p> <p>①博士前期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 文献調査のための英文読解能力、実験から多くを学ぶ観察能力を有している人。 (思考・判断)</p> <p>2. 文献・書籍からの知識、自身の知見、将来の展望との区別が明確な思考法と判断能力を有している人。 (関心・意欲)</p> <p>3. 化学研究の実施に高いモチベーションを有している人。 (態度)</p> <p>4. 不明・不確実なことを自ら調べる姿勢を有している人。 (技能・表現)</p> <p>5. 考えながら実験を進めていく姿勢を有している人。</p> <hr/> <p>②博士後期課程 (知識・理解)</p> <p>1. 専門分野の研究動向を把握し、自らの研究の位置付けをして、将来の展望を有している人。 (思考・判断)</p> <p>2. 研究手法の高度化を工夫する思考法を備え、結果の解析の精度を確実に判断する能力を有している人。 (関心・意欲)</p> <p>3. 専門分野に関わる関連分野の発展にも関心を広げ、現実性のある将来の展望を有している人。 (態度)</p> <p>4. 自身の研究に責任ある姿勢を持つことができる人。 (技能・表現)</p> <p>5. 研究手法の工夫を継続して進めていく姿勢と能力を持っている人。自らの研究を専門家にも、また社会にも説明できる能力を有している人。</p>
------------------	--

(3) 機械工学専攻

①博士前期課程

(知識・理解)

1. 材料力学、機械力学、流体力学、熱力学の基礎を理解し、各力学の実験の考察、結論を導き出すことができる人。

(思考・判断)

2. プロジェクト科目、卒業研究を通して指導教員とともに自らのテーマの内容を把握し、専門用語等の説明できる能力が身に付いている人。

(関心・意欲)

3. 関連分野の文献検索ができる。関連学会を積極的に参加する意欲を有している人。

(態度)

4. 研究室での研究等の運営を協調性を持ってできる人。

(技能・表現)

5. 自らの研究についてのまとめる能力（文章力、プレゼンテーション）が身に付いている人。

②博士後期課程

(知識・理解)

1. 材料力学、機械力学、流体力学、熱力学を体系的に理解し、関連した分野の実験方法を理解している人。

(思考・判断)

2. 具体的かつ詳細な研究計画を立案し、当該研究計画に基づき実験及び解析をやり遂げることができる人。

(関心・意欲)

3. ディスカッションを通じて、研究手法、実験手法、解析手法に創意工夫を加えることができる人。

(態度)

4. 指導教員等と円滑なコミュニケーションを図りながら、リーダーシップをもってチームの研究に貢献することができる人。

(技能・表現)

5. 科学技術の発展と多様化に対応できる論理的思考力と文章力、プレゼンテーション能力を有している人。

(4) 電気工学専攻

①博士前期課程

(知識・理解)

1. 電磁気や回路等に関する基本的知識と理解力を有する人。

(知識・理解／思考・判断)

2. 電気工学の体系を身につけ、応用力を持とうとする人。

(関心・意欲)

3. 電気工学専攻が掲げる目的を理解し、それを遂行する意欲がある人。

(態度／技能・表現)

4. 自ら学ぼうとし、発信しようとする人。

②博士後期課程

(知識・理解／技能・表現)

1. 前期課程の研究概要又はそれに相当することについて、説明することができる人。

(知識・理解／思考・判断)

2. 電気工学の体系を身につけ、応用力を持とうとする人。

(関心・意欲)

3. 電気工学専攻が掲げる目的に共感し、それを遂行する意欲を有する人。

(態度)

4. 自ら学び、広い視野を持とうとする人。

(5) 建築・建設工学専攻

①博士前期課程

(知識・理解)

1. 建築・建設工学分野に関する学士課程の基礎学力を有している人。

(思考・判断)

2. 建築・建設工学分野において、技術者の社会的責務を常に考え、適切な判断により行動できる人。

(関心・意欲)

3. 建築・建設工学分野の社会的問題に関心を持ち、実験やフィールド調査を通して研究し、解決する意欲を有する人。

(態度)

4. 積極的な活動をもとに、設計や研究の正しい方向を見定め、具体的な計画を立案し、行動できる人。

(技能・表現)

5. 自らが専門とする建築・建設工学分野に関する知見を、正しく、的確に表現できる人。

	<p>②博士後期課程 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築・建設工学分野に関する博士前期課程の基礎学力を有している人。 (思考・判断) 2. 建築・建設工学分野において、社会における技術者の責務を十分に理解しており、適切な判断により行動できる人。 (関心・意欲) 3. 建築・建設工学分野の社会的課題に関心を持ち、将来的な課題解決に向けて、新規的で独創的な研究を行う意欲のある人。 (態度) 4. 社会における研究の意義を踏まえ、研究者間で学术交流の場にも積極的に参加し、研究の動向と正しい方向を見定め、具体的な計画を立案し、行動できる人。 (技能・表現) 5. 自らの研究分野における内容と知見を、社会的な意義も含め、正しく、的確に表現できる人。
	<p>(6) 環境システム学専攻 ①博士前期課程 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境技術者又は研究者を目指す人。 (思考・判断) 2. アジア地域の環境保全に関心を持つ人。 (関心・意欲) 3. 環境問題に関心を持ち、それを解決する意欲のある人。 (態度) 4. 自主的・継続的に勉学・研究を実行できる人。 (技能・表現) 5. 環境全般の基礎的知識を持ち、実験・調査に取り組める人。 (大学卒業レベルの英語力のある人)
	<p>②博士後期課程 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度なレベルの環境技術者又は研究者を目指す人。 (思考・判断) 2. 研究に対して計画から実験・調査および分析を行うことができる人。 (関心・意欲) 3. 環境問題に関心を持ち、それを解決する意欲のある人。 (態度) 4. 自主的にかつチームワークで研究ができる人。 (技能・表現) 5. 研究論文等を読みこなすレベルの英語力のある人
2. 人文学研究科	<p>(1) 英米文学専攻 ①博士前期課程 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本専攻に入学する学生は、英語による基礎的な文書作成・読解ができる。 (技能・表現) 2. 同学生は、指導のもとに、研究課題を設定・遂行できる。 (思考・判断) 3. 同学生は、指導のもとに、研究課題の適切な調査・分析ができる。 (関心・意欲) 4. 同学生は、異文化に対する深い関心をもつことができる。 (態度) 5. 同学生は、他者とのコミュニケーションを通して、学問的な交流ができる。 <p>②博士後期課程 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本専攻に入学する大学院生は、英語による文書作成・読解ができる人。 (技能・表現) 2. 同院生は、独自の研究課題を設定・遂行できる人。 (思考・判断) 3. 同院生は、複眼的視野で、独自の研究課題に関する適切な調査・分析ができる人。 (関心・意欲) 4. 同院生は、課題解決に必要な知識・情報を収集・分析できる人。 (態度) 5. 同院生は、他者との円滑なコミュニケーションを通して、学問的交流ができる人。

(2) 社会学専攻

①博士前期課程

(知識・理解)

1. 社会学・社会福祉学の基礎的な知識を持ち、論理的に理解することができる人。
(思考・判断)
2. 歴史的な社会的文脈を踏まえ、複雑化する現代社会に対して社会的に思考・判断することができる人。
(関心・意欲)
3. 人権と社会正義に対する基礎的な原理を理解し、その原理から課題に取り組もうとする意欲や関心を有する人。
(態度)
4. 自分の研究関心や問題意識を、調査対象者や協力者を含む、他者に明確な形で伝えることができる人。
(技能・表現)
5. 社会学・社会福祉学の基本的な知識を踏まえながら、社会的な状況について、他者と意見交換ができる人。また、自分の関心や意見を他者に伝えるための明確な文章を作成したり、口頭で報告することができる人。

②博士後期課程

(知識・理解)

1. 社会学・社会福祉学の研究達成状況に関する知識を持ち、論理的に理解することができる。
(思考・判断)
2. 歴史的な社会的文脈を踏まえ、複雑化する現代社会に対して社会的に思考・判断し、一定の解決策を示すことができる。
(関心・意欲)
3. 人権と社会正義に対する原理を理解し、その原理から課題に取り組もうとする意欲や関心を有する。
(態度)
4. 自分の研究関心や問題意識、研究成果を、他者に明確な形で伝えることができる。
(技能・表現)
5. 社会学・社会福祉学の研究達成状況を研究動向を踏まえながら、社会的な状況について、他者と意見交換ができる。また、自分の研究成果を他者に伝えるための論文を作成したり、口頭で報告することができる。

(3) 心理学専攻

①博士前期課程

1. 心理学の諸領域に関する幅広い基礎知識を有していること。
2. 適切なデータ収集及び解析方法に関する知識を有していること。
3. 実験・調査・事例研究などの心理学の研究方法論を理解し、具体的な研究計画を立案できること。
4. 英語の科学的論文や文献を読み、その内容を把握できること。
5. 対人援助の高度専門職業人としての資質・適性を有していること。(臨床心理学コース)

②博士後期課程

1. 心理学の諸領域に関する幅広い基礎知識を有していること。
2. 適切なデータ収集及び解析方法に関する知識を有していること。
3. 実験・調査・事例研究などの心理学の研究方法論を理解し、具体的な研究計画を立案できること。
4. 英語の科学的論文や文献を読み、その内容を把握できること。
5. 研究成果を学界ならびに社会に還元し、学術や社会の発展に貢献しようとする意欲を有すること。

3. 情報学研究科

(1) 情報学専攻

①博士前期課程

(知識・理解)

1. コンピュータのハードウェアとソフトウェア、及び数学の基礎的知識が身についている。
2. ネットワーク、アプリケーションプログラミング、情報処理に関する基礎的知識が身についている。
(思考・判断)
3. コンピュータに関わる工学的な課題を論理的に理解し、判断することができる。
(関心・意欲)
4. 技術者としての倫理観と専門知識を有し、社会に対する責務を負うことができる。
5. 各分野で利用されているプログラミング言語を用いて、実用的なプログラミングができる。
(態度)
6. 自然科学、社会科学、人文科学等の分野において、情報処理技術を幅広く活用することができる。
(技能・表現)
7. 様々な課題に対して論理的な思考を簡単な文章で表現することができる。
8. 自律的に学習し、日常生活をしていく上で必要な表現力、コミュニケーション力などの基本的な技能が身についている。
9. 最新の情報知識、技術知識の概要を理解し、その応用方法を簡単な文章で表現することができる。

	<p>②博士後期課程 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータのハードウェアとソフトウェア、及び数学の応用的知識が身についている。 2. ネットワーク、アプリケーションプログラミング、情報処理に関する応用的知識が身についている。 <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. コンピュータに関わる工学的な課題を論理的に理解し、的確に判断することができる。 <p>(関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 技術者としての倫理観と専門知識を有し、社会に対する責務を理解している。 5. 各分野で利用されているプログラミング言語を用いて、実用的なプログラミングができる。 <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 自然科学、社会科学、人文科学等の分野において、情報処理技術を幅広く活用することができる。 <p>(技能・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 様々な課題に対して論理的な思考を簡単な文章で表現することができる。 8. 研究成果を発信するために必要な論文作成能力及びプレゼンテーション能力を有している。 9. 最新の情報知識、技術知識の概要を理解し、その応用方法を説明できる。
4. 経済学研究科	<p>(1) 応用経済学専攻</p> <p>①修士課程 (知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財務・会計や金融・経済に関する基礎的知識を有する人。 <p>(思考・判断)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 経済学や商学に立脚した自らの研究テーマを設定することができる人。 <p>(技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 自らの考えを論理的かつ的確に表現し、他者に伝えることができるコミュニケーション能力を有する人。 <p>(態度／関心・意欲)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. グローカル化する社会や多様化する組織の中で、大学院での研究を活かし、高度専門職業人となる等積極的に社会貢献を行う意欲を有する人。
5. 教育学研究科	<p>(1) 教育学専攻</p> <p>①博士前期課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部教育で培った能力を発展させ、学校教育の課題の解決に立ち向かう意欲のある人。 2. 教科や発達・学習に関する諸問題を論理的に考察しようとする人。 3. 教育経験を省察し、さらに高度な専門的能力、資質を探求しようとする人。 4. 子ども理解や、授業実践力をより高める意欲のある人。 5. 教育現場における課題意識を持っている人。 <p>②博士後期課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学に関して、高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を目指す人。 2. 教育学に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者を目指す人。 3. 生涯学習として教育学を研究し、その知識や能力を知識基盤社会で役立てたいと考える人。

別表第5-1 学位授与の要件 理工学研究科

(1) 物理学専攻

①博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数			
専攻科目	基礎物理学分野							
	1	選択	素粒子論特論A	2	22単位以上 合計30単位以上			
			素粒子論特論B	2				
			素粒子論演習A	2				
			素粒子論演習B	2				
			統計物理学特論A	2				
			統計物理学特論B	2				
			統計物理学演習A	2				
			統計物理学演習B	2				
			原子分子物理特論A	2				
			原子分子物理特論B	2				
			原子分子物理演習・実験A	2				
			原子分子物理演習・実験B	2				
			2	選択		素粒子論演習C	2	
						素粒子論演習D	2	
	統計物理学演習C	2						
	統計物理学演習D	2						
	原子分子物理演習・実験C	2						
	原子分子物理演習・実験D	2						
	宇宙物理学分野							
	1	選択				宇宙物理学特論A	2	
						宇宙物理学特論B	2	
						宇宙物理学演習・実験A	2	
						宇宙物理学演習・実験B	2	
						天体物理学特論A	2	
			天体物理学特論B	2				
			天体物理学演習・実験A	2				
			天体物理学演習・実験B	2				
	2	選択	宇宙物理学演習・実験C	2				
			宇宙物理学演習・実験D	2				
			天体物理学演習・実験C	2				
			天体物理学演習・実験D	2				
	物性物理学分野							
	1	選択	固体分子物性特論A	2				
			固体分子物性特論B	2				
			固体分子物性演習・実験A	2				
固体分子物性演習・実験B			2					
放射線計測学特論A			2					
放射線計測学特論B			2					
物性物理学特論A			2					
物性物理学特論B			2					
物性物理学演習・実験A			2					
物性物理学演習・実験B			2					
ソフトマター物理特論A			2					
ソフトマター物理特論B			2					
ソフトマター物理演習・実験A			2					
ソフトマター物理演習・実験B			2					
2			選択	固体分子物性演習・実験C	2			
				固体分子物性演習・実験D	2			
				物性物理学演習・実験C	2			
				物性物理学演習・実験D	2			

			ソフトマター物理演習・実験C	2	
			ソフトマター物理演習・実験D	2	
論文指導科目	1	必修	物理学研究1	2	8単位
			物理学研究2	2	
	2	必修	物理学研究3	2	
			物理学研究4	2	
【修士学位授与要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院修士課程に2年以上在学 ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：8単位、選択：22単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格 					
【履修上の注意】					
<ul style="list-style-type: none"> ・科目名にA, B, C, Dを付しているものについては、原則としてアルファベット順に履修すること。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「物理学研究1～4」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に2年間で履修すること。 					

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数	
専攻科目	基礎物理学分野					
	1	選択	素粒子論特別講義A	2	8単位以上	
			素粒子論特別講義B	2		
			統計物理学特別講義A	2		
			統計物理学特別講義B	2		
			原子分子物理特別講義A	2		
			原子分子物理特別講義B	2		
	宇宙物理学分野					
	1	選択	宇宙物理学特別講義A	2		
			宇宙物理学特別講義B	2		
			天体物理学特別講義A	2		
			天体物理学特別講義B	2		
	物性物理学分野					
	1	選択	固体分子物性特別講義A	2		
			固体分子物性特別講義B	2		
			放射線物理特別講義A	2		
			放射線物理特別講義B	2		
			物性物理学特別講義A	2		
			物性物理学特別講義B	2		
			ソフトマター物理特別講義A	2		
ソフトマター物理特別講義B			2			
論文指導科目	1	必修	物理学特別研究1	2	12単位	
			物理学特別研究2	2		
	2	必修	物理学特別研究3	2		
			物理学特別研究4	2		
	3	必修	物理学特別研究5	2		
			物理学特別研究6	2		
【博士学位授与要件】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：12単位、選択：8単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士学位論文審査および最終試験に合格 						
【履修上の注意】						
<ul style="list-style-type: none"> ・科目名にA, Bを付しているものについては、原則としてアルファベット順に履修すること。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「物理学特別研究1～6」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に3年間で履修すること。 						

(2) 化学専攻

①博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数		
専攻科目	1	選択	無機化学特論 A	2	22単位以上 合計30単位以上		
			無機化学特論 B	2			
			無機化学特論 C	2			
			無機化学特論 D	2			
			有機化学特論 A	2			
			有機化学特論 B	2			
			有機化学特論 C	2			
			有機化学特論 D	2			
			物理化学特論 A	2			
			物理化学特論 B	2			
			分析化学特論 A	2			
			分析化学特論 B	2			
			生化学特論 A	2			
			生化学特論 B	2			
			生化学特論 C	2			
			生化学特論 D	2			
			生物物理特論 A	2			
			生物物理特論 B	2			
			2	選択		無機化学演習・実験 A	2
						無機化学演習・実験 B	2
	無機化学演習・実験 C	2					
	無機化学演習・実験 D	2					
	有機化学演習・実験 A	2					
	有機化学演習・実験 B	2					
	有機化学演習・実験 C	2					
	有機化学演習・実験 D	2					
	物理化学演習・実験 A	2					
	物理化学演習・実験 B	2					
	論文指導科目	1	必修	化学研究 1		2	8単位
				化学研究 2		2	
2		必修	化学研究 3	2			
			化学研究 4	2			

【修士学位授与要件】

- ・本大学院修士課程に2年以上在学
- ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：8単位、選択：22単位以上）を修得
- ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格

【履修上の注意】

- ・「～演習・実験」は2年次に履修すること。
- ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。
- ・「化学研究1～4」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に2年間で履修すること。

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
専攻科目	1	選択	錯体化学特別講義A	2	8単位以上
			錯体化学特別講義B	2	
			有機合成化学特別講義A	2	
			有機合成化学特別講義B	2	
			生物有機化学特別講義A	2	
			生物有機化学特別講義B	2	
			反応物理化学特別講義A	2	
			反応物理化学特別講義B	2	
			構造生物学特別講義A	2	
			構造生物学特別講義B	2	
			分子生物化学特別講義A	2	
			分子生物化学特別講義B	2	
			機能生物化学特別講義A	2	
			機能生物化学特別講義B	2	
			機能物性化学特別講義A	2	
			機能物性化学特別講義B	2	
			構造生物化学特別講義A	2	
			構造生物化学特別講義B	2	
論文指導科目	1	必修	化学特別研究 1	2	12単位
			化学特別研究 2	2	
	2	必修	化学特別研究 3	2	
			化学特別研究 4	2	
	3	必修	化学特別研究 5	2	
			化学特別研究 6	2	
【博士学位授与要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：12単位、選択：8単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士學位論文審査および最終試験に合格 					
【履修上の注意】					
<ul style="list-style-type: none"> ・科目名にA，Bを付しているものについては、履修の順番に関する制限を原則設けていません。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「化学特別研究1～6」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に3年間で履修すること。 					

合計20単位以上

(3) 機械工学専攻

①博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
専攻科目	デザイン・加工分野		材料力学特論 A	2	22単位以上 合計30単位以上
	1	選択	材料力学特論 B	2	
			材料力学演習・実験 A	2	
			材料力学演習・実験 B	2	
			工業材料特論 A	2	
			工業材料特論 B	2	
			工業材料演習・実験 A	2	
			工業材料演習・実験 B	2	
			材料設計・強度学特論 A	2	
			材料設計・強度学特論 B	2	
			材料設計・強度学演習・実験 A	2	
			材料設計・強度学演習・実験 B	2	
			機械加工特論 A	2	
			機械加工特論 B	2	
			機械加工演習・実験 A	2	
			機械加工演習・実験 B	2	
			エネルギー・環境分野		
	1	選択	燃焼工学特論 B	2	
			燃焼工学演習・実験 A	2	
			燃焼工学演習・実験 B	2	
			流体力学特論 A	2	
			流体力学特論 B	2	
			流体力学演習・実験 A	2	
			流体力学演習・実験 B	2	
			航空流体力学特論 A	2	
			航空流体力学特論 B	2	
			航空流体力学演習・実験 A	2	
			航空流体力学演習・実験 B	2	
			環境エネルギー変換特論	2	
			環境エネルギー変換演習・実験 A	2	
			環境エネルギー変換演習・実験 B	2	
	システム・制御分野		機械力学特論 A	2	
	1	選択	機械力学特論 B	2	
			機械力学演習・実験 A	2	
			機械力学演習・実験 B	2	
			人間工学特論	2	
			振動工学特論	2	
			人間工学演習・実験 A	2	
			人間工学演習・実験 B	2	
			ロボット工学特論 A	2	
ロボット工学特論 B			2		
ロボット工学演習・実験 A			2		
ロボット工学演習・実験 B			2		
数理工学分野			応用数学特論 A	2	
1	選択	応用数学特論 B	2		
		機械数学特論	2		
論					

文 指 導 科 目	1	必修	機械工学研究 1	2	8単位
			機械工学研究 2	2	
	2	必修	機械工学研究 3	2	
			機械工学研究 4	2	
【修士学位授与要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院修士課程に2年以上在学 ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：8単位、選択：22単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格 					
【履修上の注意】					
<ul style="list-style-type: none"> ・科目名にA, B, C, Dを付しているものについては、原則としてアルファベット順に履修すること。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「機械工学研究1～4」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に2年間で履修すること。 					

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
専 攻 科 目	デザイン・加工分野				8単位以上 合計20単位以上
	1	選択	材料力学特別講義A	2	
			材料力学特別講義B	2	
			工業材料特別講義A	2	
			工業材料特別講義B	2	
			材料設計・強度学特別講義A	2	
			材料設計・強度学特別講義B	2	
			機械加工特別講義A	2	
			機械加工特別講義B	2	
	エネルギー・環境分野				
	1	選択	エネルギー工学特別講義A	2	
			エネルギー工学特別講義B	2	
			環境エネルギー変換特別講義A	2	
			環境エネルギー変換特別講義B	2	
			流体力学特別講義A	2	
			流体力学特別講義B	2	
			航空流体力学特別講義A	2	
			航空流体力学特別講義B	2	
			内燃機関特別講義A	2	
			内燃機関特別講義B	2	
			熱力学特別講義A	2	
			熱力学特別講義B	2	
	システム・制御分野				
	1	選択	ビークルダイナミクス特別講義A	2	
			ビークルダイナミクス特別講義B	2	
			人間工学特別講義A	2	
			人間工学特別講義B	2	
ロボット工学特別講義A			2		
ロボット工学特別講義B			2		
論文 指 導 科 目	1	必修	機械工学特別研究 1	2	12単位
			機械工学特別研究 2	2	
	2	必修	機械工学特別研究 3	2	
			機械工学特別研究 4	2	
	3	必修	機械工学特別研究 5	2	
			機械工学特別研究 6	2	
【博士学位授与要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：12単位、選択：8単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士学位論文審査および最終試験に合格 					
【履修上の注意】					

- ・科目名にA, B, C, Dを付しているものについては、履修の順番に関する制限を設けていません。
- ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。
- ・「機械工学特別研究1～6」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に3年間で履修すること。

(4) 電気工学専攻

①博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数	
専攻科目	基礎・共通					
	1	選択	電気・電子回路学特論 A	2	22単位以上	
			電気・電子回路学特論 B	2		
			電気磁気学特論 A	2		
			応用電気数学特論 A	2		
			応用電気数学特論 B	2		
			応用電気電子工学総論	2		
			電気工学特論 A	2		
			電気工学特論 B	2		
	専門・応用					
	1	選択	パワーエレクトロニクス特論	2		
			電力工学特論	2		
			電気機器学特論	2		
			制御工学特論	2		
			宇宙システム工学特論	2		
			情報通信工学特論 A	2		
			情報通信工学特論 B	2		
			電磁波工学特論	2		
			マイクロ波工学特論	2		
			物性工学特論	2		
	電子デバイス工学特論	2				
	演習・実験授業					
	1	選択	社会インフラシステム演習・実験	2		
			エネルギーストレージ工学演習・実験	2		
			電力工学演習・実験	2		
			制御工学演習・実験	2		
			先進電磁波動工学演習・実験	2		
先進電磁材料工学演習・実験			2			
超電導工学演習・実験			2			
低温工学演習・実験			2			
通信情報工学演習・実験			2			
視覚情報工学演習・実験			2			
映像情報工学演習・実験			2			
ナノテクノロジー演習・実験 A			2			
ナノテクノロジー演習・実験 B			2			
論文指導科目	1	必修	電気工学研究 1	2	8単位	
			電気工学研究 2	2		
	2	必修	電気工学研究 3	2		
			電気工学研究 4	2		
【修士学位授与要件】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院修士課程に2年以上在学 ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：8単位、選択：22単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格 						
【履修上の注意】						
<ul style="list-style-type: none"> ・科目名に A, B を付しているものについては、履修の順番に関する制限を原則設けていません。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「電気工学研究 1～4」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に2年間で履修すること。 						

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
------	------	------	-----	-------	-----------

専攻科目	共通		1	必修	応用電気電子工学特別講義	2	8単位以上	合計20単位以上
	専門		1	選択	社会インフラシステム特別講義	2		
	エネルギーストレージ工学特別講義	2						
	電力工学特別講義	2						
	制御工学特別講義	2						
	低温工学特別講義	2						
	電気工学特別講義A	2						
	電気工学特別講義B	2						
	宇宙システム工学特別講義	2						
	視覚情報工学特別講義	2						
	映像情報工学特別講義	2						
	物性工学特別講義	2						
	電子デバイス工学特別講義	2						
	プラズマ工学特別講義	2						
先進電磁波動工学特別講義	2							
先進電磁材料工学特別講義	2							
論文指導科目	1	必修	電気工学特別研究 1	2	12単位			
			電気工学特別研究 2	2				
	2	必修	電気工学特別研究 3	2				
			電気工学特別研究 4	2				
	3	必修	電気工学特別研究 5	2				
			電気工学特別研究 6	2				
【博士学位授与要件】								
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：14単位、選択：6単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士学位論文審査および最終試験に合格 								
【履修上の注意】								
<ul style="list-style-type: none"> ・科目名にA，Bを付しているものについては、履修の順番に関する制限を原則設けていません。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「電気工学特別研究 1～6」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に3年間で履修すること。 								

(5) 建築・建設工学専攻

① 博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数	
専攻科目	共通分野科目					22単位以上 合計30単位以上
	1	必修	建築・建設工学総論A	2		
			建築・建設工学総論B	2		
		選択	建築・建設工学インターンシップ	4		
	建築デザイン分野科目					
	1	選択	建築計画特論	2		
			建築意匠特論	2		
			建築史特論	2		
			インテリアデザイン特論	2		
	構造工学・材料工学分野科目					
	1	選択	構造デザイン特論	2		
			構造デザイン演習・実験	2		
			鋼構造学特論	2		
			鋼構造学演習・実験	2		
	建設工学分野科目					
	1	選択	地震工学特論	2		
			地震工学演習・実験	2		
			地盤工学特論	2		
地盤工学演習・実験			2			
防災工学特論			2			
防災工学演習・実験			2			
建築設備分野科目						
1	選択	建築設備学特論	2			
		建築設備学演習・実験	2			
論文指導科目	修士論文・修士設計科目				8単位 ※注	
	1	必修	建築・建設工学研究1	2		
			建築・建設工学研究2	2		
	2	選択必修	建築・建設工学研究3A(論文)	2		
			建築・建設工学研究3B(設計)	2		
			建築・建設工学研究4A(論文)	2		
建築・建設工学研究4B(設計)			2			
【修士学位授与要件】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院修士課程に2年以上在学 ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：12単位、選択：18単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格 						
【履修上の注意】						
<ul style="list-style-type: none"> ※ 建築・建設工学研究3A/4A(論文)又は建築・建設工学研究3B/4B(設計)のいずれかを選択し、セットで履修すること。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「建築・建設工学研究1～4」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に2年間で履修すること。 						

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数	
専攻科目	建築デザイン領域科目					8単位以上
	1	選択	建築計画特別講義	2		
			建築意匠特別講義	2		
			建築史特別講義	2		
			構造デザイン特別講義	2		
			インテリアデザイン特別講義	2		
			鋼構造学特別講義	2		
構造工学・材料工学領域科目						
			鋼構造学特別講義	2		

目	1	選択	地震工学特別講義	2	合計20単位以上
			地盤工学特別講義	2	
			防災工学特別講義	2	
			建築設備学領域科目		
	1	選択	建築設備学特別講義	2	
論文指導科目	1	必修	建築・建設工学特別研究1	2	12単位
			建築・建設工学特別研究2	2	
	2	必修	建築・建設工学特別研究3	2	
			建築・建設工学特別研究4	2	
	3	必修	建築・建設工学特別研究5	2	
			建築・建設工学特別研究6	2	
【博士学位授与要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：12単位、選択：8単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士学位論文審査および最終試験に合格 					
【履修上の注意】					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「建築・建設工学特別研究1～6」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に3年間で履修すること。 					

(6) 環境システム学専攻

①博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数	
専攻科目	共通科目					
	1	必修	環境システム学総論	2	22単位以上 合計30単位以上	
		選択	環境統計解析	2		
			地球環境科学	2		
			総合学外実習	2		
	基盤科目（環境情報系）					
	1	選択	都市システム総論	2		
			大気科学特論	2		
	基盤科目（環境技術系）					
	1	選択	環境化学特論	2		
			微生物学特論	2		
	専門科目（環境情報系）					
	1	選択	都市環境計画特論	2		
			都市環境計画演習	2		
			環境評価特論	2		
			環境評価演習	2		
			気象・熱環境学特論	2		
			気象・熱環境学演習・実験	2		
			大気環境解析特論	2		
			大気環境解析演習・実験	2		
	専門科目（環境技術系）					
	1	選択	水環境・バイオプロセス特論	2		
			水環境・バイオプロセス演習・実験	2		
廃棄物管理・循環資源化特論			2			
廃棄物管理演習・実験			2			
環境微生物学特論			2			
環境微生物演習・実験			2			
環境機器分析演習・実験			2			
環境バイオマテリアル特論			2			
環境バイオマテリアル演習・実験			2			
環境機器分析特論			2			
論文指導科目	1	必修	環境システム学研究 1	2	8単位	
			環境システム学研究 2	2		
	2	必修	環境システム学研究 3	2		
			環境システム学研究 4	2		
【修士学位授与要件】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院修士課程に2年以上在学 ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：10単位、選択：20単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格 						
【履修上の注意】						
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「環境システム学研究 1～4」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に2年間で履修すること。 						

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
専	共通科目				
	1	選択	総合学外実習（後期課程）	2	
			専門科目（環境情報系）		
1	選択	都市環境計画特別講義	2		
		環境評価特別講義	2		

攻 科 目	1		気象・熱環境学特別講義	2	8単位以上	合計20単 位以上	
			大気環境解析特別講義	2			
	専門科目（環境技術系）						
	1	選択	水環境・バイオプロセス特別講義	2			
			資源廃棄物学特別講義	2			
			環境微生物学特別講義	2			
環境機器分析特別講義			2				
環境材料学特別講義			2				
論 文 指 導 科 目	1	必修	環境システム学特別研究 1	2	12単位		
			環境システム学特別研究 2	2			
	2	必修	環境システム学特別研究 3	2			
			環境システム学特別研究 4	2			
	3	必修	環境システム学特別研究 5	2			
			環境システム学特別研究 6	2			
【博士学位授与要件】							
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：12単位、選択：8単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士学位論文審査および最終試験に合格 							
【履修上の注意】							
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 ・「環境システム学特別研究 1～6」は、研究指導教員の授業を数字の小さい順に3年間で履修すること。 							

		演習 I		ミクロ経済学・応用ミクロ経済学研究指導 B 2 計量経済学・応用計量経済学研究指導 B 2 国際地域開発論研究指導 B 2 税法研究指導 B 2 応用金融経済論研究指導 B 2 会計学研究指導 B 2 流通・マーケティング論研究指導 B 2 環境経済学研究指導 B 2 現代社会政策論研究指導 B 2 ベンチャー企業論研究指導 B 2 国際租税法研究指導 B 2 労働経済学研究指導 B 2 産業経済論研究指導 B 2 経済政策研究指導 B 2 財政金融政策研究指導 B 2 財務会計論研究指導 B 2	2単位
論文指導科目	経済学研究演習	応用家在学习演習 II	2	マクロ経済学・応用マクロ経済学論文指導 A 2 ミクロ経済学・応用ミクロ経済学論文指導 A 2 計量経済学・応用計量経済学論文指導 A 2 国際地域開発論論文指導 A 2 税法論文指導 A 2 応用金融経済論論文指導 A 2 会計学論文指導 A 2 流通・マーケティング論論文指導 A 2 環境経済学論文指導 A 2 現代社会政策論論文指導 A 2 ベンチャー企業論論文指導 A 2 国際租税法論文指導 A 2 労働経済学論文指導 A 2 産業経済論論文指導 A 2 経済政策論文指導 A 2 財政金融政策論文指導 A 2 財務会計論論文指導 A 2	2単位
				マクロ経済学・応用マクロ経済学論文指導 B 2 ミクロ経済学・応用ミクロ経済学論文指導 B 2 計量経済学・応用計量経済学論文指導 B 2 国際地域開発論論文指導 B 2 税法論文指導 B 2 応用金融経済論論文指導 B 2 会計学論文指導 B 2 流通・マーケティング論論文指導 B 2 環境経済学論文指導 B 2 現代社会政策論論文指導 B 2 ベンチャー企業論論文指導 B 2 国際租税法論文指導 B 2 労働経済学論文指導 B 2 産業経済論論文指導 B 2 経済政策論文指導 B 2 財政金融政策論文指導 B 2 財務会計論論文指導 B 2	2単位

【修士学位授与要件】

- ・本大学院修士課程に2年以上在学
- ・修了に必要な単位：30単位以上（経済学研究特論：22単位以上〈コア科目2科目4単位以上含む〉、経済学研究演習：8単位〈応用経済学演習 I/II よりそれぞれ4単位〉）を修得
- ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格

【履修上の注意】

- ※1 経済学研究特論は、コア科目2科目4単位以上と応用科目の合計で22単位以上を修得すること。
- ※2 応用経済学演習 I/II に区分される科目の中から、それぞれ2科目（A・Bセット履修）を履修すること。
- ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。

別表第5-4 学位授与の要件 情報学研究科

(1) 情報学専攻
① 博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
専攻科目	1	選択	コンピュータアーキテクチャ特論Ⅰ	2	18単位以上
			コンピュータアーキテクチャ演習Ⅰ	1	
			情報ネットワーク特論Ⅰ	2	
			情報ネットワーク演習Ⅰ	1	
			計算言語学Ⅰ	2	
			計算言語学演習Ⅰ	1	
			ネットワークソフトウェア特論Ⅰ	2	
			ネットワークソフトウェア演習Ⅰ	1	
			組合せデザイン論Ⅰ	2	
			組合せデザイン論演習Ⅰ	1	
			数物情報特論Ⅰ	2	
			数物情報演習Ⅰ	1	
			生体情報工学論Ⅰ	2	
			生体情報工学演習Ⅰ	1	
			画像情報処理Ⅰ	2	
			画像情報処理演習Ⅰ	1	
			ヒューマンコンピュータインタラクションⅠ	2	
			ヒューマンコンピュータインタラクション演習Ⅰ	1	
			イメージ情報学論Ⅰ	2	
			イメージ情報学演習Ⅰ	1	
			プログラミング言語Ⅰ	2	
			プログラミング言語演習Ⅰ	1	
			情報システム設計論Ⅰ	2	
			情報システム設計演習Ⅰ	1	
			情報音楽特論Ⅰ	2	
			情報音楽特論演習Ⅰ	1	
			応用ネットワーク特論Ⅰ	2	
応用ネットワーク演習Ⅰ	1				
計算科学特論Ⅰ	2				
計算科学演習Ⅰ	1				
論文指導科目	1	必修	情報学特別輪講Ⅰ	2	12単位
			情報学特別演習Ⅰ	4	
		2	必修	情報学特別実験Ⅰ	
【修士学位授与要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院修士課程に2年以上在学 ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：12単位、選択：18単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格 					
【履修上の注意】					
<ul style="list-style-type: none"> ・論文指導科目は配当学年に従って順次履修すること。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 					

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
専攻科目	1	選択	コンピュータアーキテクチャ特論Ⅱ	2	8単位以上
			コンピュータアーキテクチャ演習Ⅱ	1	
			ヒューマンコンピュータインタラクションⅡ	2	
			ヒューマンコンピュータインタラクション演習Ⅱ	1	
			計算言語学Ⅱ	2	
			計算言語学演習Ⅱ	1	
			組合せデザイン論Ⅱ	2	
			組合せデザイン論演習Ⅱ	1	
			生体情報工学論Ⅱ	2	

			生体情報工学演習Ⅱ	1	
論文指導科目					12単位
	1	必修	情報学特別輪講Ⅱ	2	
	2	必修	情報学特別演習Ⅱ	4	
	3	必修	情報学特別実験Ⅱ	6	
【博士学位授与要件】					
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：12単位、選択：8単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士学位論文審査および最終試験に合格 					
【履修上の注意】					
<ul style="list-style-type: none"> ・論文指導科目は配当学年に従って順次履修すること。 ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 					

別表第5-5 学位授与の要件 教育学研究科

(1) 教育学専攻
①博士前期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数
専攻科目	1	選択	教育学文献研究 1 A (西洋教育史)	2	22単位以上
			教育学文献研究 2 A (西洋教育史)	2	
			教育学文献研究 1 B (日本教育史)	2	
			教育学文献研究 2 B (日本教育史)	2	
			教育学文献研究 1 C (教育思想)	2	
			教育学文献研究 2 C (教育思想)	2	
			教育学調査研究 A (教育職)	2	
			教育学調査研究 1 B (教育方法)	2	
			教育学調査研究 2 B (教育方法)	2	
			教育学調査研究 1 C (教育課程)	2	
			教育学調査研究 2 C (教育課程)	2	
			教育学調査研究 1 D (教育心理)	2	
			教育学調査研究 2 D (教育心理)	2	
			教育学調査研究 1 E (教育行財政)	2	
			教育学調査研究 2 E (教育行財政)	2	
			教育学調査研究 1 F (教育相談)	2	
			教育学調査研究 2 F (教育相談)	2	
			教育学調査研究 1 G (臨床教育)	2	
			教育学調査研究 2 G (臨床教育)	2	
			教育学調査研究 1 H (生涯学習)	2	
			教育学調査研究 2 H (生涯学習)	2	
			幼児教育学研究 1 A (保育課程・指導法)	2	
			幼児教育学研究 2 A (保育課程・指導法)	2	
			幼児教育学研究 1 B (保育内容)	2	
			幼児教育学研究 2 B (保育内容)	2	
			障害児者教育学研究 1 A (障害児者教育理論)	2	
			障害児者教育学研究 2 A (障害児者教育理論)	2	
			障害児者教育学研究 1 B (障害児者発達・心理)	2	
			障害児者教育学研究 2 B (障害児者発達・心理)	2	
			障害児者教育学研究 1 C (障害児者教育課程)	2	
			障害児者教育学研究 2 C (障害児者教育課程)	2	
			障害児者教育学研究 D (知的障害児者教育方法)	2	
			障害児者教育学研究 E (肢体不自由児者教育方法)	2	
			障害児者教育学研究 F (病弱児者教育方法)	2	
			障害児者教育学研究 G (発達障害児者教育方法)	2	
			障害児者教育学研究 1 H (発達障害)	2	
			障害児者教育学研究 2 H (発達障害の病理)	2	
			教科教育学研究 1 A (国語科教育)	2	
			教科教育学研究 2 A (国語科教育)	2	
			教科教育学研究 1 B (社会科教育)	2	
			教科教育学研究 2 B (社会科教育)	2	
教科教育学研究 1 C (数学科教育)	2				
教科教育学研究 2 C (数学科教育)	2				
教科教育学研究 1 D (理科教育)	2				
教科教育学研究 2 D (理科教育)	2				
教科教育学研究 1 E (音楽科教育)	2				
教科教育学研究 2 E (音楽科教育)	2				
教科教育学研究 1 F (美術科教育)	2				
教科教育学研究 2 F (美術科教育)	2				
教科教育学研究 1 G (保健体育科教育)	2				
教科教育学研究 2 G (保健体育科教育)	2				
教科教育学研究 1 H (英語科教育)	2				
教科教育学研究 2 H (英語科教育)	2				
論文指導	1	必修	教育学演習 I	4	8単位

合計
30単位
以上

科目	2	必修	教育学演習Ⅱ	4		
【修士学位授与要件】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院修士課程に2年以上在学 ・修了に必要な単位：30単位以上（必修：8単位、選択：22単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、修士学位論文審査および最終試験に合格 						
【履修上の注意】						
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 						

② 博士後期課程

科目区分	配当学年	必選区分	科目名	(単位数)	修了に必要な単位数	
専攻科目	1	選択	教育学文献特殊研究1 A (西洋教育史)	2	8単位以上	合計 20単位以上
			教育学文献特殊研究2 A (西洋教育史)	2		
			教育学文献特殊研究1 B (日本教育史)	2		
			教育学文献特殊研究2 B (日本教育史)	2		
			教育学調査特殊研究1 A (教育課程)	2		
			教育学調査特殊研究2 A (教育課程)	2		
			教育学調査特殊研究1 B (教育心理)	2		
			教育学調査特殊研究2 B (教育心理)	2		
			教育学調査特殊研究1 C (教育行財政)	2		
			教育学調査特殊研究2 C (教育行財政)	2		
			教育学調査特殊研究1 D (臨床教育)	2		
			教育学調査特殊研究2 D (臨床教育)	2		
			教育学調査特殊研究1 E (生涯教育)	2		
			教育学調査特殊研究2 E (生涯教育)	2		
			幼児教育学特殊研究1	2		
			幼児教育学特殊研究2	2		
			障害児者教育学特殊研究1	2		
			障害児者教育学特殊研究2	2		
			教科教育学特殊研究1	2		
			教科教育学特殊研究2	2		
論文指導科目	1	必修	教育学特殊演習Ⅰ	4	12単位	
	2	必修	教育学特殊演習Ⅱ	4		
	3	必修	教育学特殊演習Ⅲ	4		
【博士学位授与要件】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本大学院博士課程に3年以上在学 ・修了に必要な単位：20単位以上（必修：12単位、選択：8単位以上）を修得 ・論文指導を受けた上、博士学位論文審査および最終試験に合格 						
【履修上の注意】						
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導教員の専攻科目を順次履修すること。 						

別表第 6-1 修士学位論文の主題等の提出時期

研究科	時期
理工学研究科	1月中旬
人文学研究科	4月下旬
情報学研究科	春学期 1月下旬、秋学期 6月下旬
教育学研究科	12月下旬
経済学研究科	春学期 1月下旬、秋学期 7月下旬

別表第 6-2 修士学位授与の申請時期

研究科	時期
理工学研究科	2月上旬
人文学研究科	2月上旬
情報学研究科	春学期 2月上旬、秋学期 7月上旬
教育学研究科	2月上旬
経済学研究科	春学期 2月上旬、秋学期 8月上旬

別表第 7-1 博士学位論文の主題等の提出時期

研究科	時期
理工学研究科	11月下旬
人文学研究科	4月下旬
情報学研究科	春学期 11月下旬、秋学期 4月下旬
教育学研究科	7月中旬

別表第 7-2 博士学位授与の申請時期

研究科	時期
理工学研究科	2月上旬
人文学研究科	11月下旬
情報学研究科	春学期 2月上旬、秋学期 7月上旬
教育学研究科	11月下旬

※論文博士の申請については各研究科で受理する。

別表第 8 - 1 成績の評価、評語及び評価基準

評価	評語	評価基準	合否等
学則で定める評価	成績通知書記載		
S	S	100点～90点	合格
A	A	89点～80点	
B	B	79点～70点	
C	C	69点～60点	
F	F	59点以下	
-	I	追試験対象の学生が病気等によって追試験を受験できず、成績入力期限に間に合わない場合。	保留
-	W	長期の病気等によって、履修登録訂正期間内に登録取り消しができなかった場合、または訂正期間以降登録科目の受講が困難になった場合で特別に履修登録取消を認めた場合。	履修登録取消
-	T	他大学および他大学院にて取得した単位を認定する場合。	単位認定

別表第 8 - 2 成績の評価に係る異議申立ての条件

条件	
1	当該科目は「履修登録」をした科目である。
2	当該科目の授業中に課せられたレポート等成果物を全て提出している。及び授業期間内で随時行われた試験を全て受験している。
3	当該科目の定期的に行う試験を受験している。

別表第9 GPA

区分		評価	G P
G P A対象	合格	S	4.0
		A	3.0
		B	2.0
		C	1.0
	不合格	F	0.0
G P A対象外	単位認定（単位認定科目）	T	—